

12年越しの結実。「高貴なる原石」の名を継承する高性能αGR。

■エーデルシュタイン II

12年前、試験中の事故により実験施設ごとロストした初代エーデルシュタインのコンセプトを継承してワイズ連邦所属国ガーディアルで再開発、建造されたαGR。

計画のコンセプトが継承され、初代エーデルシュタインとは外観に共通点が見られるためII（ツヴァイ）の名が冠されているが、フレームから全く新規の別機体である。

テストベッドとして3体建造された機体は出力係数が極端に高い特殊なコアを搭載しており、そのコアの性能を十全に引き出す為に開発されたユングブラウユニット GT-SCR505e 型「シュナイダー II」と、高出力かつ新型 SMS（シンセティック・モーション・システム）搭載で反応速度が向上した四肢モジュールで構成される。その高出力によって機体にかかる負荷熱を処理するために、各所の放熱ユニットが大型化されているのは初代から継承された特徴である。最大出力時はパイロットが耐えられない程の高負荷がかかる為、専用OSに加えてコアの出力を調整するためのリミッターとも言える機体制御用のサブプログラム「ルーシア」を搭載、常時機体を管理しているが、その状態で現状のαGR中トップクラスの破格の機動性を誇る。この特殊なコアが12年前の爆発事故の原因とされているレッドストーンと同一かどうかは不明だが、時を経て「特殊なコアを制御する」事に於いて一定の成功を収めたと言える機体となった。

特殊コアとその出力に耐えうる器として開発された本機だが、故にその機体は通常のコアを搭載した場合でも従来機を凌駕しており、通常コアを搭載し、予めリミッターが組み込まれたOSを搭載した先行量産機が試験的に各戦線のエース級パイロットに優先的に配備されている。（故にこちらはルーシアを搭載していない）

先行量産機のスタンダードカラーは白×紺。このカラーリングは初代エーデルシュタインを踏襲したものだが、特殊なコアを搭載しテストに使用された3体のオリジナルモデルは異なる外装とカラーリングが施されており、それぞれハイペリオン、オケアノス、クロノスと呼称されている。

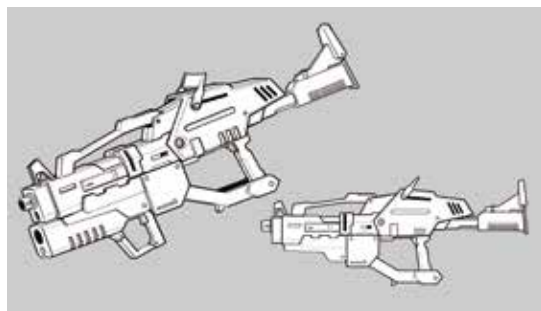
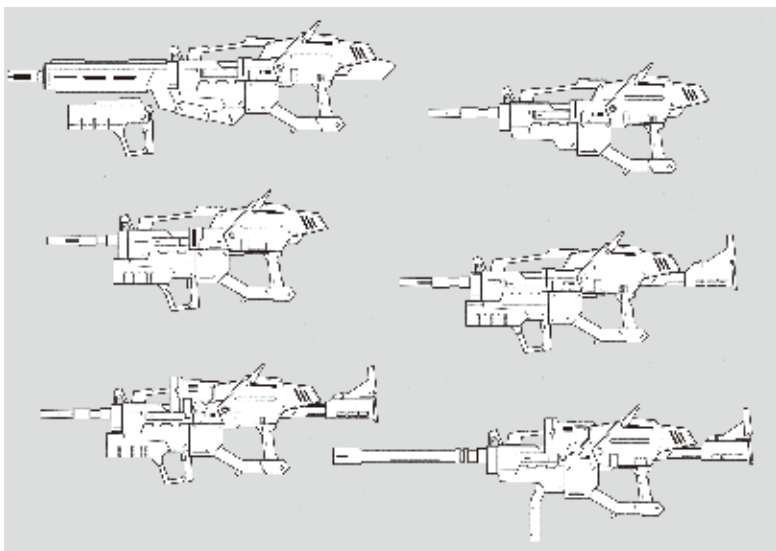
先行量産機はそれぞれエース級の部隊やパイロットに配備され、戦場に於いても華々しい活躍を遂げているが、並のパイロットではその性能を十全に発揮できず機体に振り回されてしまうため、パイロットの技量と機体性能、両方が揃ったからこそその成果だと言えよう。代表的な機体としてはガーディアル本国防衛部隊「ブラックラビッツ」、ジャマハール国の「デザートキャヴァリエリ」、旧フランスの国営傭兵部隊「エフェメール」など。

3体のオリジナルモデルもそれぞれ実戦投入されているとされているが、真偽のほどは定かではない。

機体と同時に開発、肩部ハードポイントに装備されたオプション兵装「ハーゼンオール」は長距離ジャンプユニットで、単体では飛行能力のないGRを長距離ジャンプによって擬似飛行させたり、敵射程外からの高速突撃などにも用いられる。腰に装備された実体剣「ヴィルトシュヴァイザン」には補助ブースターが装備されており、斬撃時にブーストをかける事でその威力を高めるほか、本体装備時は機体制御用ブースターとしても運用される。



先行量産機
スタンダードカラー



■DH ネルシオン社製 P-451-E マルチパーパス・ウェポンシステム 「ヴィレッタ II」

連邦軍のグリムリーパーが装備する汎用ウェポンシステム。作戦によりパレル、補助武装などを換装可能なビーム/実弾複合兵装で、マニピレーターや各ハードポイントに装備することでPT-AM（Pull Trigger At Manipulator）方式からCFC（Control From Cockpit）方式に切り替え可能。